

令和7年度第5回 京都市京北地域公共交通会議

日 時：令和8年3月25日（水）14：15～15：00

場 所：右京区役所京北出張所 1階1-1会議室

出席者：別紙「出席者名簿」参照

1 開会挨拶

○ 井上会長（龍谷大学）

最近、ガソリン価格が急騰している。コロナ禍も非常にしんどかったが、このまま原油高が続くと、タクシー・トラック・バス・鉄道と、交通業界はかなり厳しくなることが想定される。

そんな中、地域にとって、絶対に残さなければならない移動サービスは何か、どこまでだったら地域で手伝えるのか、ここはバス業者にお任せしないとまずいのではないかといった、交通を長く維持できるような方策を本日も検討いただければと思う。よろしく願います。

2 議題

(1) 令和7年度の取組状況と来年度の取組（案）について

※ 事務局から資料3「令和7年度の取組状況と来年度の取組（案）」に沿って説明

○ 井上会長（龍谷大学）

デマンド交通の乗車体験をされた方、運転をされた方など、何か話はあるか。

○ 山下委員随員（きょうと京北ふるさと公社）

9日間、京北ふるさと公社が運行主体となり、乗車体験を実施した。27名の方に利用いただき、大変喜んでいただいたのは事実であるが、「当日まで予約が可能であってほしい」という声や、今回は無料であったが実証運行時は「なるべく安い運賃にしてほしい」という声をいただいた。

○ 坪井委員代理（南丹市）

予約方法について、電話予約とWEB予約のどちらの方が多かったか。

南丹市でもデマンド交通を行っているが、予約受付方法は電話のみであり、WEB予約を取り入れることも考えているため、参考に教えてほしい。

○ 事務局

今回は京北地域住民の方を対象に弓削地域で実施した。実際には電話予約のみであったが、来年度においてはシステムを構築し、アプリ等での予約を可能にして、観光客の方にも利用いただくこと、また京北地域全域で実施することを考えている。今回利用いただいた方は、高齢者の方の買い物や通院といった形であったが、来年度はより広い層の方が利用いただくことを想定している。

○ 井上会長（龍谷大学）

南丹市のデマンド交通はどういった利用属性であるか。

○ 坪井委員代理（南丹市）

南丹市のデマンド交通は、平成23年度から運行しているが、基本的に地域住民の利用がメインであり、車を持っていない高齢者の利用がほとんどを占めている。運行事業者が予約受付センターも行っており、電話予約を受け付けている。WEB予約も今後考えていかなければと思っているが、メインの客層が高齢者であり、実際に予約が可能なのかという課題はあると思っている。

○ 井上会長（龍谷大学）

デマンド交通のドライバーは、南丹市営バスの運転士と同じか。

○ 坪井委員代理（南丹市）

南丹市営バスの運転士とは別である。旧4町（船井郡の園部町、八木町、日吉町、北桑田郡の美山町）のうち、「ぐるりんバス」が運行している園部地域を除く）3地域で、タクシー事業者がそれぞれ1社ずつ（八木地域のみ2社）、委託契約したうえで運行を行っている。

南丹市営バスは別途運行しているが、バスが運行していない時間帯をカバーする形で、デマンド交通はタクシー車両を使って地域の事業者が運行している。

○ 井上会長（龍谷大学）

1運行ごとのコストが高いため、利用が増えるほど赤字が増えることになると思われる。デマンド交通は公共交通ではあるが、タクシーに近いサービスになればなるほど、本来のタクシー運賃と、望まれる安い運賃とのギャップを誰が埋めるかという話になる。1日100人、200人と増えていくと、コストも膨らむため、どこかで費用負担がしんどくなるため留意する必要がある。

本格運行導入時の注意点として、安心・安全に乗降できる場所を選択することだと思う。家の前まで来てほしいという気持ちは分かるが、安全上の問題はないか、ドライバーが運転しにくいのかといったことを加味した点を、地元の方としっかり協議できればと思う。

また、始めると必ず「もっと早い時間に」「もっと遅い時間に」「もっと遠くまで」といった要望が出るが、全部聞き始めると対応できなくなる。まずは今回の乗車体験のように、スモールスタートで感触を探りながら、徐々にパワーアップさせるのが良いと思う。

WEB予約を増やすには、WEB予約の方が得になる仕組み、例えば「WEB予約なら1時間前まで予約可能、電話は前日まで予約可能」「運賃もWEB予約の方が安い」などが必要である。WEB予約ができない人への対応としては、予約の体験会、近所の方をお願いするといった方法が考えられる。来年度の京北ふるさとまつりにおいて、デマンド交通の車両を持ってこることも考えているとのことなので、その時に予約体験や車内見学を行うといった取組をすると、登録者はかなり増えると思う。

他地域の事例を踏まえると事前準備が一番大切である。また、子育て世代の方も子供の送迎などで使われることがあるため、高齢者の乗り物だと思い込まずに、多くの方に利用いた

だけるよう周知するとよい。ドライバーのアンケートもぜひ取ってほしい。住民ドライバーの協力あつてのデマンド型交通であり、ドライバーが「しんどい」と感じると継続できない。利用者も、ドライバーに配慮できるような良い関係になると、長続きすると思う。

○ 中野委員（京都運輸支局）

デマンド交通の実証運行については、令和8年10月から自家用有償旅客運送での実施で想定されている。開始に当たっては、京都運輸支局への手続が必要となり、概ね2か月程度掛かる。逆算すると、8月上旬頃には、本会議で対価の設定等の概要を決めていただくスケジュール感で進めていただくようお願いする。

○ 事務局

中野委員から先程発言のあった今後のスケジュールについて、7月中若しくは8月のお盆頃までには、改めて本会議を開催し、協議いただく場を設けたいと考えている。

利用料金については、安くすれば良いというものではなく、持続可能なものとなるよう、京北ふるさと公社とも議論を進め、地域にも提示しながら進めてまいりたい。今後も様々な形で皆様から御意見をいただきながら進めていきたいと考えており、お気づきの点があれば、事務局までお伝えいただきたい。

○ 井上会長（龍谷大学）

企画券の取組は順調かと思う。乗り場に綺麗な宣伝が出ており、並んでいる人が「こんなに安いチケットがあるんだ」と知るのには良いことだと思う。京北地域は、インバウンドの方は来られているか。

○ 事務局

多くなってきていると感じている。実際に高雄・京北線に乗ることがあるが、京北地域まで足を運ばれている方も一定数見かける。京北地域には、色々な文化体験ができる場所があり、まだまだ知られていない魅力がたくさんあると思っている。

「いけいけ京北 親子でGO!」は、今は国内の方向けの体験イベントであるが、インバウンドの方もこういった体験を求めておられると思われる。京都市としても、市内中心部の混雑を緩和するために、周辺への誘客を進める施策を進めており、インバウンドの方も含めて、多くの方に京北地域にお越しいただけるよう、引き続き、取り組んでまいりたい。

○ 樋口委員（京北出張所）

インバウンドの方が、周山周辺の宿泊施設に素泊まりされて、バスの朝早い便でお帰りになれる姿がしばしば見受けられる。

○ 井上会長（龍谷大学）

外国人向けの需要はあるようだ。伊根町は最近、客層が変わってきている。以前は台湾の方が多かったが、最近では欧米系の方が増えているという話も聞く。市内中心部の混雑を避けて、「本物」を見たいという日本への理解の深い方々が来ていると推察されるので、情報発信

をしっかりとしていくと良いと思う。京北地域の魅力、常照皇寺の桜などをどう発信していくかが重要である。京北に来た後に美山へ行き、日吉を通って帰るといった回遊性を発信されるのも良いかと思う。

「いけいけ京北 親子でGO!」は7,000円という料金でも、25組の参加があったのは良いことである。金額は問題ではなく、魅力的な体験が求められていることが実証された。ぜひ来年度も取り組んでもらえたらと思う。

⇒ 議題「令和7年度の取組状況と来年度の取組（案）」について承認

(2) その他

○ 井上会長（龍谷大学）

バスの運転時刻については、もう少しゆとりが取れないか。

○ 朝倉委員（西日本JRバス）

降雨やその日の運転士にもよるが、本日は専属ドライバーではなく、運行管理を普段行っている人が担当であったため、不慣れであったかもしれない。

3 閉会挨拶

○ 藤原委員代理（歩くまち京都推進室）

本日は、お忙しい中、京都市京北地域公共交通会議に出席いただき感謝する。貴重な御意見を賜り、今後活かしてまいります。

公共交通を取り巻く状況は厳しく、利用促進の取組は重要であり、引き続き注力してまいります。一方、近年は特に運転士等の担い手不足が全国的な課題となっている。その影響もあり、西日本JRバスにおいても、減便を余儀なくされている。

京北地域においては、京北ふるさとバスが地域の足として、また、朝夕の時間帯は小中学生のスクールバスとして、大変重要な役割を担ってきたが、利用者数の減少や運転士不足の影響により、運行を維持していくことが徐々に難しくなっている。

一方、本日報告した全戸アンケート調査結果から、将来、自動車の運転が困難となった時の不安などを抱えておられる方も多くおられることを把握したところ。

こうしたことを踏まえ、将来にわたる持続可能な生活交通を維持・確保するため、京北地域の実情に応じたデマンド交通の導入に向けた取組を進めている。

本日は、実証運行の実施に関して承認いただいたところである。3月に実施した乗車体験において、利用者、ドライバーの方からのいただいた御意見を来年度の実証運行にも活かしてまいります。今後、運行形態や利用料金など詳細な実施内容について、検討を進めていき、この会議でお諮りさせていただく。

このデマンド交通については、住民の理解・協力あって初めて成り立つと思っており、走らせて終わりではなく、利用し続けてもらうことが大切である。京北地域の足をどのように守るのか、委員の皆様とも知恵を出し合いながら、一緒に取組を進めていきたいと考えており、引き続きの御協力をよろしく願います。

令和7年度第5回京都市京北地域公共交通会議 出席者名簿

○

委員氏名	所属・役職	当日出席者
朝倉 恵介	西日本J Rバス株式会社取締役安全運行本部長	同左
井上 学	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻教授	同左
岡部 哲使	南丹市地域振興部地域振興課長	(代理出席) 坪井主任
久保 和平	公益財団法人きょうと京北ふるさと公社理事長	同左 (委員随行) 山下部長
児玉 宜治	京都市交通局自動車部長	(代理出席) 藤井担当係長
田中 章仁	京北自治振興会会長	同左
長尾 由規夫	京都市都市計画局歩くまち京都推進室長	(代理出席) 藤原事業推進担当部長
中野 幸太	国土交通省近畿運輸局京都運輸支局首席運輸企画専門官	同左
西村 利文	京都府右京警察署交通課長	同左
樋口 泰弘	京都市右京区副区長(京北出張所長)	同左
藤島 克裕	京都府右京警察署地域課京北交番所長	同左
廣瀬 義弘	西日本旅客鉄道労働組合西日本J Rバス地方本部京都分会執行委員長	同左
松井 聡	京都市建設局土木管理部京北・左京山間部土木みどり事務所長	同左

○：会長

(敬称略、五十音順)